

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

会報

Forum for Furusato Kasugai Studies

NO. 57

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

2018. 3. 11 発行

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

編集責任者：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第57回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『鳥居松地域の歴史と地域活性化の取り組み』

平成30年2月4日（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ：『鳥居松地域の歴史と地域活性化の取り組み』と題して、河地清氏（本会会長、商学博士）に講演していただきました。氏は、町内会長や社会福祉協議会会長、鳥居松商店街振興組合賛助会員の活動を通じたその経験から地域活性化についての現状の取り組みの報告と今後の助言・提言をされました。河地清氏は2004年度から愛知江南短大地域協働研究所（所長 中田實（名古屋大学名誉教授））の活動にも参加され、研究員を務められました。江南地域の活性化とまちづくりについて研究された成果を春日井の地で取り組む決意をされて、住民主体のまちづくりと市と住民が協働して「わがまち意識によるまちづくり」の基本構想を2008年に組み立て、2013年3月に「ふるさと春日井学研究」フォーラムを設立されました。その中で「ふるさと意識」の醸成にもとづく地域の活性化、まちづくりを追究されてきました。

今回の「鳥居松地域の活性化」のテーマは、取り組みの原点が見えてくる成功事例に近い取り組みの芽生えを評価してのものです。講演後大塚俊幸中部大学教授から、助言をいただきました。

フォーラム参加者は、21名でした。



講演する 河地 清 氏

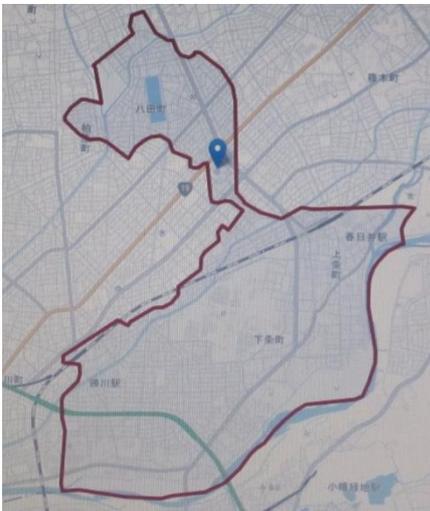


会場風景

一 発表要旨

I. かつての広域の鳥居松に立ち返ってのまちづくりの提案

明治 39 年(1906)に和爾良村と小野村が合併して鳥居松村になった。現在の鳥居松町



より北は朝宮神社のある朝宮・八田から、南は下条、上条、小野を含む広い地域であった。昭和 18 年(1943)年まで続いた。途中、昭和 2 年(1927)に国鉄中央線「鳥居松駅」が開業した。こういう広域のとらえかたをすれば、現在の鳥居松地区(鳥居松商店街・本通商店街を中心とした)も新たな特色を生かしたまちづくりの活動ができる。

II. 県道春日井一宮線(春日井市役所前～松河戸)沿線に点在する道風の石碑遺跡群の活用

この小野道風に関する石碑の風景を旧鳥居松地区のまちづくり・鳥居松地域の活性化に活用できる。

和爾良村全域図

故山田哲也市議が市議会で「書まち春日井」について

市議会で一般質問と提案をした(平成 27 年 12 月第 5 回市議会定例会)ことが、鳥居松と道風とのかかわりに現実味を持たせることになる。商店街としては、鳥居松商店街、鳥居松本通り商店街、鳥居松広小路商店街に加えて春日井駅前商店街を含めた広域コミュニティとの協働で「鳥居松まちづくりエリアマネジメントの考え方」の採用が望まれる。町内会も八事、町割り、上ノ町に加えて春日井駅前の上条を加えて、歴史・文化性を重視した活性化に活用できると提案をした。商店街と町内会の協働でのまちづくりである。「書のまち」の魅力を産業資源として活用する活性化の原動力とする住環境の改善である。わがまち意識・ふるさと意識が高まり、魅力を感じるまちにすることが基本で、安易な観光資源としての集客の方法のみでは限界がある。

III. 「鳥居松商店街ニュース」で情報発信しながらの地域活性化の取り組み

鳥居松商店街振興組合(理事長 青山公美)が発行する「鳥居松商店街ニュース」は、地域の歴史と文化を記事にしている。(以下記事の見だしを列挙する。)

2017. 11(23 号)は鳥居松夏まつり、一体となった「鳥居松」。街角ステッカー、鳥居松本通、広小路商店街にも。春駅パル、ハロウィン仮装で盛り上がる。「ふるさと春日井学」研究フォーラム、「人間小野道風」に迫る。

2017. 7(22 号)鳥居松まつり開催、盆踊り、お化け屋敷で盛り上がる。

2017. 5(21 号)地域に貢献、飯田重蔵親子。初代飯田重蔵(安政 4 年死去)と二代目飯田重蔵(明治 16 年死去)の碑。5 月 28 日総会開催、地域のコミュニティづくりを。「街角メッセージ」に 3 教室の 80 作品。街角メッセージが地域活性化の実践論文に。

2017. 16(19 号)「鳥居松」のいわれはどこから?2 つの説の紹介。春日井の魅力を発信、春日井情報発信センター リリックの設置。

2016. 7(18号)鳥居松夏まつり、テーマは「再発見 ふるさと鳥居松」。皆で一緒に盆踊り。ご利益があるかも!地域の氏神様。

2016. 5(17号)新年度のご挨拶、鳥居松商店街振興組合理事長。街角メッセージに園児も登場。鳥居松夏まつり新企画「お化け屋敷」登場

2016. 2(16号)下街道の文化財、郷土館、横井也有の句碑、鳥居松観音堂など。

2014. 11(11号)防犯カメラ設置で より安全なまちづくり、今年も八幡小6年生の作品が「街角メッセージ」に。春日井まつりに、鳥居松商店街振興組合も協賛出店する。

IV. 大学の研究者からの助言、「まちのファンづくりが大切、地道にやるしかない」

中部大学の犬塚俊幸氏(中部大学准教授歴史地理学科、地理学博士)は都市地理学からのアプローチで各地の活性化計画づくりやマスタープランづくりに参加してきた方で、今回はフォーラム参加者の一人として助言していただいた。①鳥居松地区を広くとらえることは大切な視点だとしたうえで、商店街振興から取り組むと行き詰る。まちづくりの観点が必要である。その場合に、商業者の役割りが重要だ。朝から晩までそこで生活する商業者の方の頑張っておられるからだ。②ふるさと意識の醸成とともに、「まちのファンづくり」が大切だ。特に女性と若い人のファンだ。③街道ウォークで歴史と文化を体験することが大切だ。④ファンとどう一緒にやっていくか、当事者としてなるよう役割分担で地道にやっていくしかない、などの発言を得た。ほかに、商店街連合会の副会長の青山博徳氏から①色々な方法で活性化に取り組んでいる②便利で住みよい街として、春日井駅の南を開発する。駅南に高層マンションと商業施設ができる。「お金をだしても住みたい街」にする。元気な街には街のブランドが必要だ。そのブランドに誇りをもてる街にする。④サポテン券を11億円発行する予定だ。実際には約8割が大型店やドラッグストアで使われる実態が地元での消費拡大に少しでも貢献できる取り組みとしたい。と話された。

V. 河地清氏の「鳥居松地域活性化への提言」活性化の前提条件

①ここで生きていくという覚悟・決意・愛着が前提 ②現在の問題点の把握(後継者・地権者の高齢化) ③地域の歴史・文化を共有する=ふるさと意識の醸成 ④方向性(流れに抵抗する・流れに乗る・新しい価値観)行政と地域住民が協働する方向性が必要。

具体的提言

①空き店舗の有効活用(書道文化関連の業者誘致) ②地域の観光化・下街道の市の開設「下街道市」・文化、歴史ウォーキング ③駅前シンボル(モニュメント)と導線整備 ④「街角メッセージ」書道コンクールで活性化の火種をつくる ①夏まつりで地域の協働 ②街角メッセージの取り組み ③下街道の景観・郷土館保存への地域住民の意思 ④「書のまち」としての環境づくりの動き(美術協会との協賛事業)文化フォーラム、道風記念館を活用した活性化を考える(PR活動) ⑤中部大学生11,000人の学生にとって魅力的な「まちづくり」に参加してもらおう。

(記録: 塚田忠雄)

住民主体の「まちづくり」とは

TORIMATSU SHOPPING CENTER NEWS



鳥居松商店街ニュース

2018年(平成30年) 3月4日 Vol.24

[編集・発行] 鳥居松商店街振興組合編集室 [理事長] 青山公美 [連絡先] ☎0568-81-3116 メールアドレス: info@aooyama-kenzai.com

鳥居松商店街の取り組みを紹介

2月4日にささえ愛センターで第57回「ふるさと春日井学」研究フォーラムが開かれました。

今回は「鳥居松地域の歴史と活性化の取り組み」をテーマに同フォーラムの河地清会長が講演しました。

鳥居松は古くは上条や八田も含み、「まほろばの地」と言われた豊かで恵まれた土地。行政区画は変遷しましたが、河地会長は鳥居松、鳥居松広小路、本通に加えて春日井駅前商店街も含めた大きなエリアで地域



活性化を考えるべきだと話します。

また鳥居松には郷土館を始め下街道の面影を伝える文化財が残っています。地域の歴史・文化・自然を知って魅力を再発見し、ふるさと意



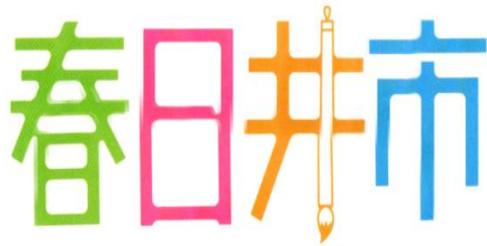
識を醸成させることが地域の発展につながります。

河地会長はその理論を実践しつつあるとして鳥居松商店街の取り組みを紹介。子どもや大人の書道作品を街路灯柱に掲示する街角ステッカーが「書のまち春日井」をアピールしながらまちづくりに役立っていると話しました。また地域の活動や歴史を紹介する小紙も、強力な発信源として取り上げられ

ました。

講座後のディスカッションでは、地域活性化にはどんな取り組みが必要か、いろいろな意見が出されました。また、中部大学人文学部の大塚俊幸教授は、ふるさと意識の醸成の次に、まちのファンを作っていくことがまちづくりにつながると講評。書のまちである歴史や文化を鳥居松の活性化に生かしてほしいと話していました。





第六次総合計画

2018-2037

私たちのまちの
未来図

「春日井市第六次総合計画」表紙

都市である本市は、市民の愛着と誇りを育み、いつまでも住み続けたいまちを築くほか、戦略的かつ効果的な魅力の発信を行うことで、若い世代から選ばれるまちとなる必要があります。」(P72)としています。

拙稿論文『「地域活性化」の本質的方法試論—「ふるさと春日井学」研究フォーラム実践の検証—』(「修文大学研究紀要8」2017.2所収)の中で、行政の意識変化の中に「ふるさと意識」が強く意識される方向に政策転換が知見出来たと以下のように指摘しました。

『平成20年第五次春日井市総合計画(新長期ビジョン2008~2017)では、特に市民や市

外からの人に「誇れる歴史と文化」はないと結論し、「観光活用による賑わいを市は事実上

あきらめた。」としていた当初の意識が「民間の発想による観光の産業化を支援する」に発

想を転換している。「ふるさと意識」を意識した発想の転換と見ることが知見出来た。(P152)

今回の「第六次総合計画」の策定にあたって、行政企画政策部を中心とした膨大な作業がまとめられたことに、敬意を表するとともに、本会「ふるさと春日井学」研究フォーラムに対するヒアリング、文献(『会報』・論文)が参考資料(P79)として引用されたことに感謝申しあげたいと思います。「ふるさと意識」の醸成こそが「地域活性化」の本質であることを踏まえた実践がスタートすることになってきたことを表すものだと思います。平成30年度は市政75周年の節目、年号も「平成」から「〇〇」に変わり、明治維新150年の大きな

住民主体の「まちづくり」とは、支援(ひと、もの、かね)はするが、口を出さない行政の意識・姿勢こそが、住民主体の「まちづくり」を成功させる鍵だと思います。

春日井市は2018年2月「第六次総合計画—2018~2037 私たちのまちの未来図」を策定しました。第4部総合計画の実現に向けて第1章まちづくりの進め方では、「市民協働の推進」「地域資源を活用した活力の創出」を上げています。(P65) 3. 地域資源を活用した活力の創出では、「地域の歴史や良好な景観など本市の特性や魅力といった地域資源を最大限に活かし、誰もが愛着と誇りを持って住み続けることができるまちづくりを進めます。」とし、その③戦略的かつ効果的な魅力発信の推進において、「住宅

節目にあたる年です。「私たちのまちの未来図」をデザインするに相応しい時の到来と言ってもよいのではないのでしょうか。あくまでもデザインするのは、「地域住民」が主体であることを肝に銘じて実践してゆかねばなりません。

(文責：河地 清)

「ふるさと春日井学」研究フォーラムのご案内

平成 30 年度フォーラム予定（開催日時は未定）

テーマ内容（予定）仮題

- ・『小野道風の風景』
- ・『「福澤諭吉」と「林 金兵衛」』
- ・『「地域活性化」と「まちづくり」の取り組み』
- ・『戦争産業遺産「名古屋陸軍造兵廠鷹来製造所」の保存』
- ・『飯田重蔵別邸（郷土館）保存の意義』
- ・ふるさと春日井の自然環境—その魅力—

※いずれも、パネルディスカッション方式で行いたいと思っています。

場所：市民活動支援センター（ささえ愛センター）

PM13:30～15:30

(非会員の方のみ資料代 500 円徴収させていただきます。)

尚、中部大学コモンズセンター（「不言実行館」3階）において、本会会長河地 清が「ふるさと春日井の魅力」をテーマにして前後期 2 回講義します。会員の方々には案内させていただきますので是非ご参加ください。（無料）

※事務局：〒486-0825 春日井市中央通り 2-9 TEL・FAX0568-82-5973 会長 河地 清

mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学検索 

フォーラム案内は中日新聞「ウィークエンドガイド」（毎週金曜日）近郊版に掲載します